



2021年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年2月12日

上場会社名 株式会社アイリックコーポレーション 上場取引所 東
 コード番号 7325 URL https://www.irrc.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 勝本 竜二
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 戸谷 元彦 TEL (03)5840-9551
 四半期報告書提出予定日 2021年2月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（決算説明動画（録画）配信予定）

（百万円未満切捨て）

1. 2021年6月期第2四半期の連結業績（2020年7月1日～2020年12月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年6月期第2四半期	2,163	5.2	80	△67.4	82	△66.9	35	△76.6
2020年6月期第2四半期	2,056	16.9	246	9.9	249	23.7	150	23.8

（注）包括利益 2021年6月期第2四半期 35百万円（△76.6%） 2020年6月期第2四半期 150百万円（23.8%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年6月期第2四半期	4.14	4.09
2020年6月期第2四半期	17.65	17.41

（注）2020年6月期末において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2020年6月期第2四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

（2）連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
2021年6月期第2四半期	3,855		3,433		89.0	
2020年6月期	3,973		3,500		88.1	

（参考）自己資本 2021年6月期第2四半期 3,432百万円 2020年6月期 3,499百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年6月期	—	0.00	—	12.00	12.00
2021年6月期	—	0.00	—	—	—
2021年6月期（予想）	—	—	—	12.00	12.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

3. 2021年6月期の連結業績予想（2020年7月1日～2021年6月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,800	15.1	460	△4.0	460	△5.9	280	△13.4	32.80
	～5,000	～19.9	～500	～4.3	～500	～2.3	～330	～2.1	～38.65

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年6月期2Q	8,538,000株	2020年6月期	8,538,000株
② 期末自己株式数	2021年6月期2Q	289株	2020年6月期	201株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年6月期2Q	8,537,780株	2020年6月期2Q	8,537,844株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(企業結合等関係)	8
(追加情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大により急激な景気後退を余儀なくされましたが、各国政府の財政支援や拡大防止策により持ち直しの動きがみられます。一方、今後の感染症の更なる拡大のリスク、米中对立の加速、米国新政権政策の影響等、不透明感が強く残る状況となっております。

ただ、消費者による保険へのニーズは依然として高く、一般社団法人生命保険協会の生命保険事業概況によると、個人保険新規契約(金額ベース)は5月25日の緊急事態宣言解除以降徐々に回復し、10月には前年同月比1.2%増と底堅く推移しております。

このような外部環境の下、当社は「人と保険の未来をつなぐ～Fintech Innovation～」という企業テーマを掲げ、独自開発した『保険IQシステム[®]』、『ASシステム』及び『AS-BOX』を活用し、店舗及びシステムユーザーの更なる拡大を目指しております。また、DXプロジェクトを推進し、いつでもどこでも『保険クリニック[®]』のサービスが受けられるよう、お客様に最良のサービスを提供することを目指し、保険分析・販売支援におけるプラットフォームとしての事業展開を推進しております。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

①保険販売事業

直営店部門は、当第2四半期連結累計期間における3店舗の新規出店と1店舗の統合により、12月末は46店舗となりました。2020年の緊急事態宣言解除後も集客に若干の影響が残ってはいるものの、①テレビコマercial、②テレビコマercialと連動させたWeb広告や直営店における各種イベント、③電話相談・オンライン相談への積極的な誘導により、手数料収入は順調に推移し前第2四半期連結累計期間を上回りました。

法人営業部門は、税制改正の影響が続いており、同期間を下回る結果となりました。

この結果、同事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は1,351,863千円(前年同期比0.5%増)、セグメント利益は203,518千円(同34.1%減)となりました。

②ソリューション事業

AS部門は、新型コロナウイルス対策として見込み先企業で在宅勤務が増加し検討が進まなかったこと、8月に保険代理店の大型解約があったことが影響し、やや低調に推移しました。一方、大手保険会社をはじめとした大型案件は複数あり、具体的な導入に向けて話し合いを進めております。今後も全国規模の金融機関や大手保険会社、地方銀行、企業系代理店による新規導入を目指します。

FC部門は、他業界による積極的な保険ショップ参入が続いており、FC店舗数が当第2四半期連結累計期間に10店舗増加し、12月末は192店舗となりました。その影響から手数料収入や月額利用料が大幅に伸びました。引き続き、①新規ルート活動の強化、②既存代理店への追加出店の提案、③店舗運営指導要員の派遣という施策を実施し、他業界による新規参入者への支援と取り込みを行ってまいります。

この結果、同事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は599,241千円(前年同期比5.8%増)、セグメント利益は135,216千円(同29.1%減)となりました。

③システム事業

子会社である株式会社インフォディオは、当第2四半期連結累計期間における「スマートOCR[®]」(注1)の売上が、前年同期比3倍程度と大きく伸ばいたしました。引き続き多くの企業や官公庁からお問い合わせを頂き、株式会社JTBや独立行政法人統計センター(注2)等からの導入案件受注へ結び付けております。また、受託開発も好調に推移しており、売上高を大きく伸ばしました。

この結果、同事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は212,743千円(前年同期比47.3%増)、セグメント利益は7,286千円(同179.2%増)となりました。

(注1)「スマートOCR[®]」とは、AI(人工知能)を搭載し、ディープラーニング技術(深層学習、人間が自然に行うタスクをコンピュータに学習させる機械学習の手法の一つ)を活用した、非定型帳票対応の次世代型光学的文字認識システムです。

(注2)同センターにおいて導入された「スマートOCR」は国勢調査等に利用され、売上は第3四半期以降に計上される予定です。

当社グループは2021年6月期を「投資・準備期間」と位置づけております。3年後のあるべき姿に向けて計画的な先行投資を行っており、前第2四半期連結累計期間と比較して販売費及び一般管理費が増加しました。

具体的には、①デジタル化に向けたシステム開発、②成長戦略に対応するための人財採用及び本社増床、③認知度向上を狙ったテレビCMの放映を実施しました。一方、新型コロナウイルス感染症の拡大を背景に、オンライン会議システム導入に伴う交通費の抑制等、営業活動に係る一部の費用を抑制することができました。

この結果、販売費及び一般管理費につきましては、1,788,909千円（前年同期比15.9%増）となりました。

以上の施策により、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高2,163,847千円（前年同期比5.2%増）、営業利益80,521千円（同67.4%減）、経常利益82,816千円（同66.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益35,317千円（同76.6%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は2,476,880千円となり、前連結会計年度末に比べ155,953千円減少いたしました。これは主に現金及び預金が318,751千円減少したことによるものであります。固定資産は1,379,005千円となり、前連結会計年度末に比べ38,369千円増加いたしました。これは主に有形固定資産が17,539千円、投資その他の資産が12,771千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、3,855,886千円となり、前連結会計年度末に比べ117,584千円減少いたしました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は397,792千円となり、前連結会計年度末に比べ51,440千円減少いたしました。これは主にその他の流動負債が57,885千円減少したことによるものであります。固定負債は24,865千円となり、前連結会計年度末に比べ1,077千円増加いたしました。これは主にその他の固定負債が1,367千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、422,658千円となり、前連結会計年度末に比べ50,362千円減少いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は3,433,228千円となり、前連結会計年度末に比べ67,222千円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上及び配当金の支払いにより利益剰余金が67,136千円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は89.0%（前連結会計年度末は88.1%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2020年8月14日の「2020年6月期決算短信〔日本基準〕（連結）」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,105,730	1,786,979
売掛金	414,638	529,888
その他	112,826	160,648
貸倒引当金	△361	△636
流動資産合計	2,632,834	2,476,880
固定資産		
有形固定資産	212,952	230,492
無形固定資産		
のれん	89,294	83,710
ソフトウェア	344,705	370,090
ソフトウェア仮勘定	24,924	21,898
その他	93,893	85,175
無形固定資産合計	552,817	560,874
投資その他の資産		
投資有価証券	100,027	100,027
保証金	339,254	349,770
繰延税金資産	47,665	39,467
その他	87,919	98,373
投資その他の資産合計	574,865	587,637
固定資産合計	1,340,636	1,379,005
資産合計	3,973,470	3,855,886

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	47,469	59,376
未払金	118,878	101,154
未払費用	50,847	81,936
未払法人税等	60,300	55,544
解約調整引当金	14,412	14,500
株主優待引当金	10,474	—
その他の引当金	3,684	—
その他	143,166	85,281
流動負債合計	449,232	397,792
固定負債		
長期未払金	2,616	2,326
その他	21,171	22,538
固定負債合計	23,787	24,865
負債合計	473,020	422,658
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,319,154	1,319,154
資本剰余金	1,262,230	1,262,230
利益剰余金	918,584	851,447
自己株式	△221	△306
株主資本合計	3,499,747	3,432,525
新株予約権	702	702
純資産合計	3,500,450	3,433,228
負債純資産合計	3,973,470	3,855,886

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
売上高	2,056,430	2,163,847
売上原価	265,778	294,328
売上総利益	1,790,651	1,869,519
解約調整引当金繰入額	741	88
差引売上総利益	1,789,910	1,869,431
販売費及び一般管理費	1,543,283	1,788,909
営業利益	246,627	80,521
営業外収益		
受取利息	147	138
受取賃貸料	2,667	10,230
受取保険金	—	175
助成金収入	1,130	—
その他	102	81
営業外収益合計	4,047	10,626
営業外費用		
支払利息	72	70
賃貸収入原価	500	7,729
その他	237	531
営業外費用合計	810	8,331
経常利益	249,864	82,816
特別利益		
固定資産売却益	—	289
特別利益合計	—	289
特別損失		
固定資産除却損	3,770	2,841
特別損失合計	3,770	2,841
税金等調整前四半期純利益	246,093	80,264
法人税、住民税及び事業税	79,523	36,749
法人税等調整額	15,841	8,198
法人税等合計	95,364	44,947
四半期純利益	150,729	35,317
親会社株主に帰属する四半期純利益	150,729	35,317

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	150,729	35,317
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	—	—
四半期包括利益	150,729	35,317
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	150,729	35,317

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

(比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し)

2019年11月1日に行われた株式会社新光FPサービスからの事業譲受について、前第2四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、前第3四半期連結会計期間に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されております。

この結果、前第2四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書は、販売費及び一般管理費が4,329千円増加したことにより、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益が4,329千円、親会社株主に帰属する四半期純利益が3,068千円、それぞれ減少しております。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書において、追加情報に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定について重要な変更はありません。